



東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会
「持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク」
についての提案様式

「持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク」をご覧いただいた上で、東京 2020 大会を持続可能な大会にするためのご提案をお願いいたします。

いただいたご意見は、今後の検討に活用させていただきます。

1. ご提案内容に該当するテーマの記号を選択してください。

記号	テーマ	✓	記号	テーマ	✓
A	気候変動 (ローカーボンマネジメント)		G	計画の実現に向けたツール (持続可能性に配慮した調達 コード)	
B	資源管理	✓			
C	水・緑・生物多様性		H	計画の実現に向けたツール (ISO20121)	
D	人権・労働・公正な事業慣行等 への配慮				
E	参加・協働、情報発信 (エンゲージメント)		I	計画の実現に向けたツール (オリンピック大会影響調査)	
F	その他 ()				

<記号 A~F を選択された方>

2. 東京 2020 大会を持続可能な大会とするために、必要と考えられる施策をご提案ください。なお、記載にあたっては、できるだけ具体的にお願いします。

- (1) なぜその施策が必要と考えますか。その施策に関連する国内外の現状、東京 2020 大会との関連及び東京 2020 大会後への影響等も含めご記載ください。

農業は最大の水資源の利用者ですが、日本では持続可能性の点から注目すべきものがあります。灌漑施設は国土の隅々にまで張り巡らされていますが、それらは揚水機を利用しない自然流下による「重力灌漑」が中心であり、化石燃料をできるだけ消費しないものです。末端の施設の維持管理はコミュニティーベースの水利組合が担っていて、数百年以上続いてきたものも数多くあります。一方で園芸分野の施設栽培では、省エネルギーのためにヒートポンプ、省エネルギー型暖房、食品廃油を利用した暖房、ハウスの二重化などへの積極的な取

り組みが進められています。また、近年の地産地消の展開は省エネルギー型の生産・流通の構築に貢献しています。

日本では都市部の飲食・流通や食品加工で出された食品残さを堆肥化して畑の肥料にし、または家畜の飼料（「エコフィード」と言います）にすることも進んでいます。例えば千葉県にある農業生産者団体・和郷園では、東京のホテルニューオータニや食品小売業サミット・生協パルシステムや味の素の冷凍餃子の工場に出る食品残さを千葉県香取市の施設で堆肥化しています。その堆肥を使って畑で栽培した野菜を納品し、資源循環型の農業がおこなわれています。世界的に見ると堆肥化というのは日本がリードしている技術であり、海外からの農業技術協力でも求められるものです。食品分野と一次産業分野をつなぐリサイクル例です。

天然資源として、漁業資源も注目すべきところです。漁業資源は生物資源として再生産可能な性質（自律更新性）を有し、適切な管理が図られれば持続的な利用が可能です。水産資源学では、最大持続生産量（MSY）という考えがかねてより提唱されています。実際の水産資源管理に際しては、順応的管理（adaptive management）と呼ばれる資源管理のアプローチが重要です。漁業資源の性質や海洋環境に加え、漁業の性質や社会経済的状況を総合的に加味し、効果的で実施可能な対応をそれぞれのケースごとに検討・実施していくことが重要です。

日本は古くから漁業が盛んであり、近世以前から漁業者が共同で漁場を管理・利用してきました。江戸時代には、地先漁場については地元の漁村の漁業者が共同管理し、沖合については原則として周辺の漁村の漁業者が共同で漁場を利用し、その利用の仕方については利用者相互間で調整するという「磯は地付、沖は入会」が原則とされてきました。明治 34（1901）年に成立した旧「漁業法」によって江戸時代の制度を尊重した形で漁業権制度や漁業協同組合制度等が制定されています。昭和 24（1949）年に現行の「漁業法」が制定されました。漁業の民主化を図る一方で、関係者間の合意に基づいて資源管理を行うという従来からの理念は同じです。昭和 26（1951）年には、「水産資源保護法」が制定され、持続的な水産業のための基礎が整えられています。例えば水産資源保護法には漁業者代表や学識経験者などで構成される漁業調整委員会の指示が規定されており、漁具・漁法の制限、禁止区域、体長等の制限等が指示されます（命令に従わない場合は懲役や罰金もあり）。

資源管理手法の法的・制度的な性質は、公的な規制（トップダウンアプローチ）と、漁業者自らが発案・実施する自主的な取組（ボトムアップアプローチ）に類別されます。幅広い海域や漁業種類を包含して実施する管理手法は、政府の公的規制として行われる必要があります。特定の地域や漁業種類に限定した管理手法は、漁業者の自主的な努力に委ねることも可能です。実態に即した実行可能な対策が考案されるほか、「とも詮議」と呼ばれる漁業者間の相互監視によって実施され、政府の監視取締コストも低減可能です。日本で行われる漁業者が参加した自主的な資源管理は、多数の小規模漁業者が存在する地域の有効な資源管理手法として国際的に高い評価を得ています。国は都道府県や漁業団体と協力し、資源管理の取組をより総合的・一体的に行うため、資源管理指針・計画体制を推進しています。公的規制と自主的取組が統合された管理形態は共同管理（Co-management）と呼ばれ、世界的に注目を

集めています。

近年、話題となるウナギ資源管理の対策ですが、まずは国際的な資源管理があります。ニホンウナギのシラスは黒潮に乗って台湾、中国、日本、韓国へ流れ着き、そこで漁獲されて養殖の種苗として利用されていることから、ニホンウナギの資源を持続的に利用していくためにはこれらの国・地域間が協力して資源管理を行っていく必要があります。このため、日本がこれらの国・地域に働きかけを行い、協力に関する議論を開始しています。

日本国内におけるウナギの資源管理としては、国際協議を踏まえた国内措置として、日本の養鰻管理団体として平成 26 年 10 月「一般社団法人 全日本持続的養鰻機構」を設立しています。養殖業者毎の池入れ数量の上限も設定されました。平成 27 年 6 月 1 日施行で、ウナギ養殖業を内水面漁業振興法に基づく農林水産大臣の指定養殖業とし、農林水産大臣の許可が義務づけられました。

和食がユネスコ無形文化遺産となり、ミラノ万博では日本の食や木材建築が高く評価されるなど、国内外で日本の農林水畜産物の注目度は高まっています。世界的な和食ブームや鮭ブームにより需要が高まっている各種のマグロ類ですが、持続的な資源管理の取り組みが既に始まっています。例えば、太平洋クロマグロについては、中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)での国際合意に基づき、30 キロ未満の小型魚の漁獲について、平成 14 年から 16 年までの年間平均漁獲実績から半減する措置が平成 27 年 1 月から導入されています。この資源管理の取り組みは零細な沿岸漁業者も対象にしたもので、国・都道府県のみならず、漁業者及び漁業関係団体・漁協などのコミュニティーにとって膨大なコストと時間を必要とするものですが、持続可能な水産資源の管理という共通目標のもとで進められています。

以上の理由により、次の施策を提案します。

- (A) 東京 2020 大会の農産物の調達コードに、「省エネルギーの取り組み」「地産地消」「食品残さの利用の推進」を盛り込む
- (B) 東京 2020 大会の水産物の調達コードに持続可能性、具体的には「適切に管理された漁業、水産資源が持続的に利用できる漁業、生態系の保全に配慮した漁業」を盛り込む

評価方法としては、例えば、農業では省エネルギーが GAP (Good Agricultural Practice) 認証(*)、水産業では持続可能性が MEL (Marine Eco-Label) 認証/ MSC (Marine Stewardship Council) 認証などの基準に既に取り組みが盛り込まれていますので、これらを調達コードに使うこともできます。

*注：GAP に関しては多種多様なものがあり、省エネルギーが盛り込まれていない GAP 基準もあるので、それぞれに精査が必要です。例えば JGAP 認証 (Japan Good Agricultural Practice・日本) や GLOBALGAP 認証 (ドイツ) には省エネルギーに取り組むことを促す基準があります。

地産地消については、日本産の農産物を推進することで実現が可能です。

食品残さの利用の推進については、畜産分野についてはエコフィードの考え方が農林水産省から出ており、またエコフィード認証制度もあるため、そのまま使えます。堆肥化した食品残さの農業利用については評価方法に確たるものはなく、研究が必要です。

また、認証が無くても農林漁業者や彼らが参加する組織により、既に各地で実践されている取り組みも数多くあります。認証に代わる形で、地方自治体が統一した枠組みに沿って承認するなどの方法で、取り組みが行われていることも追求すべきです。また、自らの取り組みを申告もしくは公表する行為も、取り組みの裏付けとなり得るのではないかと考えます。なお、承認。承認した取り組みについて、日本産推進協議会のホームページや、それに代わるホームページで一覧を掲載するなど、取りまとめることも可能です。

ISOの世界では自己適合宣言の枠組みが定められており（ISO17050）、特に ISO14001 では普及してきています。これを参考に枠組みづくりができるかもしれません。